

## MESSAGE

戦後70余年、土木技術が  
支えた日本の発展

人類の歴史上、都市という概念が生まれた時から、都市の継続と発展を支えてきたのは土木技術でした。それは、写真家として都市の記録を続ける中で私自身も実感してきたことです。私は戦後70余年、定点観測式撮影法という、同じ場所を継続的に写真に収める手法により、東京を中心とした都市の復興と発展をありのままに記録してきました。

私が定点記録写真を始めようとしたきっかけは、戦争で焦土と化した祖国の姿を目の当たりにしたためです。第二次世界大戦終戦直後の東京は、今では考えられないくらい混沌としていて、国会議事堂の周りでは自給自足のための自家栽培の畑が点在し、私も空腹を凌ぐため、同僚たちと道端の草や木の芽を摘んで食べたこともありました。銀座では多くの商業施設がGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）により接収され、街の交通標識は全て英語が併記。アメリカ人と日本人の格差は大きく、このままでは日本という国がなくなってもおかしくないという危機感と隣り合わせの時代だったのです。そうして、祖国の都市の姿を何としても残さなくてはという使命感の下、私は人事院創設の折に設けられた広報課写真室のただ一人の専属カメラマンとして、日々、取材のために東京を走り回っていました。

人事院で写真室が廃止された後も個人として記録を続ける中で、目覚ましい東京の復興を見つめ続けてきました。特に、1964年の東京オリンピックを契機に、考えられないようなスピードで建設された首都高速道路は都市の景観をがらりと変えました。舗装もまだされていない土埃の舞う車道に、首都高速道路の橋脚が一定の間隔で一つ、また一つと現れ、東京の交通網の骨格ができあがってゆく姿は、どれだけ多くの人々に希望を与えたことでしょうか。都市の骨格を形づくるという行為は、つまり国づくりそのものです。

例えば、現在の東京中の地上、地下共に張り巡らされた線路は、世界を代表する都市としての個性がよく表れていると思います。これほど駅を中心として発達している都市は世界でもまれです。もちろん、各国で都市の中心となる駅は存在します。しかし、東京ではそのターミナル駅の数も多く、かつ駅を中心とした街の表情は個性に富んでおり、そうしたホットスポットが密集しているのです。公共交通機関に乗って少し移動すれば、歴史風情を感じられる場所から、テレビ広告や商業施設が並ぶ賑やかな場所まで簡単に移動することができるのですから、テーマパークと称されることもある東京は外国人観光客にとって刺激の多い都市でしょう。

このように日本の都市では交通網が非常に発達していますが、日本は資源が乏しい上、地震や暴風雨などの自然災害も多く、厳しい自然環境と常に隣り合わせにあります。しかし、振り返れば、東京では軟弱地盤、高低差のある地形、河川の氾濫といったあらゆる障害を、徳川家康の時代より、地道に繰り返されてきた土木工事とともに乗り越えてきました。全国各地で、大きな都市から山間の小さな町まで、それぞれの土地で紡がれてきた歴史の中で生活の発展の根幹には常に土木技術が結びついています。そうした先人たちの努力の上に、今の豊かな暮らしが成り立っているのだということを決して忘れてはいけません。

以前、地下鉄工事の様子を取材したテレビ番組で、トンネル工事のため、地中を掘削する際に出る土砂は未だ人力によりバケツリレーで運んでいることを知り、今から60年以上前、東京駅前の地下駐車場の建設中に、ヘルメットを被った土木作業員の方たちがツルハシを振るっていた姿を思い出しました。技術の発展の裏には必ずそれに携わる人々の努力と苦悩があり、また、どれだけ技術が発達しても人の力なくして都市の発展はあり得ません。私たちの身近にある土木技術の情報について誰もが知ることのできる機会がより一層増える必要があると感じます。これから先も、土木技術と都市の継続と発展を願ってやみません。

1964年3月10日、首都高速建設中（赤坂青山通り）（撮影：富岡畦草）



富岡畦草  
TOMIOKA Keiso

（撮影：赤城耕一）

## プロフィール

1926年、三重県久居市（現津市）生まれ。記録写真家。県立松坂工業高校卒業後、中島飛行機株式会社に就職。谷田部海軍航空隊に配属、特攻隊志願兵として終戦を迎える。運輸省東海海運局、日刊スポーツ新聞社を経て、人事院広報課写真室勤務となり、省庁関連の広報写真撮影の傍ら、記録写真を始める。定点観測式撮影法を確立し、1958年「母と子の1000日」で第1回日本写真協会新人賞受賞。戦後70年の記録写真は、高度成長期の変貌と家族の成長記録を合わせると40万コマとなる。現在でも、毎月のカメラ雑誌の連載や雑誌特集原稿などへの執筆活動と定点記録撮影を継続し、その基本理念を後世へ伝える。日本写真家協会名誉会員、日本写真協会会員、日本写真著作権協会会員ほか。著書は「変貌する都市の記録」「東京定点巡礼」など多く、またNHKテレビ開局当初より出演多数。